



めておいてはいかがでしょう。

〈記録の主な内容〉

- ・日付
- ・園児が夢中になった素材
- ・園児がその素材を生かして行った遊び
- ・所感 など

ここでいう素材には、花や実、虫、雨水、落ち葉、枯れ枝など様々な自然のものが当てはまります。この記録を保育士間で手軽に共有できるようにしておけば、保育士自身の気づきにもつながります。記録をもとに、保育士全員で季節ごとの園児の遊びを予測し、園児がその素材に気づかなければ、遊びを促すこともできます。さらに、ビオトープの自然の経年変化の記録にもなり得ます。

園児が夢中になった動植物について種名や生態などを調べて共有することで、保育士の皆さんの自然の知識も蓄積されていきます。

兵庫県保育協会の取り組み

保育所保育指針 解説にある記載のとおり、保育士の専門性には、保育所内外の自然環境を生かし保育の環境を構成していく知識や技術が含まれます。

(公社)兵庫県保育協会では、2013(平成25)年度より、こうした保育士の専門性を高めようと、日本生態系協会と連携し「保育環境充実セミナー」を開催しています。今年度は、環境省をはじめ、神戸市私立保育園連盟、姫路市保育協会、西宮市私立保育協会、兵庫県私立幼稚園協会とも共催し、実施されました。

このセミナーでは、県内の先行事例の紹介や、昨年10月から本誌で取りあげた内容を、グループでの雑談(写真②)をはさみながら一緒に考えています。過去の受講者の感想を紹介します。

〈受講者の感想の一例〉

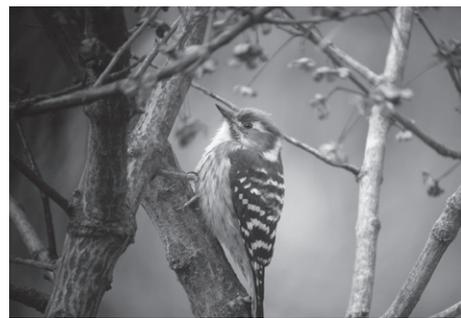
- ・自然について勘違いをしていたことに気づくこと

ができた。

- ・ちょっとした工夫でビオトープを作っていくことができるようになって、ワクワクした。
- ・自然に触れることの大事さは頭でわかっているつもりだったが、もっと深いことを再認識した。
- ・自然の中での安全管理について勉強する必要性を感じた。危険がわかれば、自然の中にもっと出やすくなると思った。
- ・(自然を)実際に保育につなげるためには、保育士全体が環境への興味や関心を持たなければ難しい。もっと周囲を巻き込む必要がある。
- ・他の地域でも、このような研修を実施してもらいたい。

あわせて、兵庫県保育協会では、日本生態系協会が保育者等を対象に自然を生かした保育環境づくりのエキスパートとして認証する「こども環境管理士」(全国私立保育園連盟ほか後援)の取得奨励も行っています。

こうした背景には、兵庫県の条例に記載された児童福祉施設の基準における「保育所は、自然及び生命の大切さ等について学ぶ機会を提供するよう努めなければならない」ということを促進させることもあります。この条文は、兵庫県保育協会の提案によって明文化されました。



写真①



写真②



自然が持つ 保育力を 生かす

5

保育士に求められること

田邊龍太

Ryota TANABE

(公財) 日本生態系協会教育研究センター長

保育士自身がおもしろいと思うこと

「ビオトープを活用する時に、保育士に求められる知識や技能、態度とは？」

今回は、この質問にお答えします。一番大切なことは、保育士自身が「ビオトープっておもしろい」と心から思うことです。なぜなら、そうした思いは、園児にも伝わるからです。保育士の思いが園児に新たな気づきを与え、おもしろいを分かち合う楽しさを知ることにつながります。花や実、虫など見た目のおもしろさに止まらず、いい匂いやお気に入りの音、触った感じの気持ちよさなど、何でも構いません。

園児と分かち合う方法も、ひと工夫があってもよいでしょう。園児がまわりにいる時に、自身がまず目を輝かせて楽しんでみせてはいかがでしょう。その様子を見ていた園児は、自ら興味を示し、きっと「何しているの？」と声を掛けてきます。主体的な遊びの始まりです。

ちなみに、私は、生きもののクモをよく題材にします。その形状から苦手意識を持つ子が多いからです。でも、よく見ると、色のきれいなものが結構います。秋に見かけるジョロウグモもその一つ。網から摘まみあげて子どもたちに見せると、始めは「ギー」と大きな声をあげて後ずさりします。こうした子どもの反応を無視し「毒はないのにね」「よく見ると、とってもきれいなのにね」「嫌われているね」と子どもに聞こえるようにつぶやきながらクモを眺めていると、子どもたちは、恐る恐る近づいてきて

一緒に見始めます。そのうち触ってみたいといい出す子も。いつのまにか、大半の子が、その後しばらくはクモ探しに夢中になっていたりします。

ビオトープを活用する時に、自然や動植物の知識は、ないより持っていたほうがよいとは思いますが、様々な自然体験プログラムも同様です。でも、これらを知らなくても、自らの思いを前面に出すことによって、園児を巻き込み、一緒に自然の楽しさや美しさ、不思議さを体験することはできます。

おもしろいことの見つけ方

ビオトープのおもしろさを見出すためには、保育士自身が定期的にビオトープに足を運ぶことが欠かせません。フィールドノートをポケットに入れて、その場でおもしろいと感じたこと、気がついたことを記録していきましょう。例えば…。

「2月10日 白と黒のしましまの小鳥が木の幹を行ったり来たり」(写真①)

「3月25日 つくしが土からたくさん顔を出した。とても可愛い」

「4月23日 テントウムシを今年初めて確認」など、種名がわからなければ、その特徴を書き込んでいきます。

園全体では、園庭ビオトープでの園児の活動に着目します。季節ごとのビオトープでの園児の遊びを、少々手間ですが、通常の日誌とは別に記録に残しておくとうよいと思います。

例えば、次のことを、写真などを付けながらまと